

## 第二回 第三者評価委員会会議録

平成25年7月5日(火)  
教育委員会室18時00分

### 施策の方向2 温かい家庭づくり・学び合える地域づくりへの支援

#### 目標1 家庭教育を支援します

##### 家庭教育啓発冊子の発行 (すみだ教育研究所長)

- ・ すたーとブックは、内容も色合いもすごくいいと思います。これはもっと、いろいろな形で活用していただくといいと思います。(小松委員)  
→すたーとブックは、非常に評判が良く、学習編の8ページ以降を追加いたしました。基本的な生活習慣だけでなく学習の芽も付けていきたいということでボリュームを上げました。(佐久間参事)
- ・ 作成にあたりプロの力を借りたのですか。(小松委員)  
→委託事業です。(佐久間参事)
- ・ すたーとブックは、就学前に配布していますが、入学後には何か配布物がありますか。というのは、入学後には学校が配布するプリントか親たちの情報しかないという状況です。予算の関係もありますが、入学後も情報提供できるようなものがあればいいと思います。(佐藤委員)

##### 両親大学の開催 (生涯学習課長)

- ・ 課題のところで補助金の申請団体の固定化という問題が取り上げられていますが、申請があると補助金交付決定のための審査があるのですか。(小松委員)  
→補助金交付の要件に該当しているかどうかをみますが申請あれば基本的に受けます。(前田課長)
- ・ 審査をすると、ついつい前年度のものを踏襲したりして毎年申請している人の方が上手で受け入れやすい傾向があります。申請内容が固定化しないで毎年新しいアイデアが出てきたりするのですが、良く見るとマンネリ化していたりすることがあります。その辺のところ難しい問題があります。(小松委員)
- ・ 家庭教育学級の補助金の交付団体は、PTA、保護者以外は自主的なサークルですか。(佐藤委員)  
→そのとおりです。保育園・幼稚園の父母の会がメインです。(前田課長)
- ・ 区によっては対象を広げているところがあります。もし、枠を広げるということであればその辺も検討課題になると思います。人数だけでなくPTAや保護者会の申請割合なども目標を設定する時の指標になると思います。(佐藤委員)
- ・ この事例は、本区とは直接関係がありませんが、最近、都内だけでなく神奈川県、千葉県で中学校の困難な事例に係る機会がありました。追跡調査をしてみたら、その根源は小学校にありました。その中学校は複数の小学校から子どもが進学してくるのですが、ある特定の小学校から来るお子さんが中心になって問題行動の核になって中学校でも扱いが難しく、それが日爆発するということになっていました。私はこの事例は偶然ではないように思えます。いくつかの中学校で共通してそういった問題が起きています。その特定の小学校は教育委員会で様々な行事の呼びかけをすることに対して参加者が非常に少なく、非常に閉じられていました。そのことが問題なのではないかということが指摘されました。  
この話を踏まえて質問なのですが、例えば家庭教育学級についていうと、申請団体の固定化があったり、すみだSST養成講座だとか食育検討委員会だったり、特定の学校がどこにも手を挙げない学校があるのかどうか。もしあるとすれば、それぞれの事業担当者が、そのことに対してどんな努力をされているのか聞かせてください。(尾木委員)  
→家庭教育学級は地域的に抜けているところはあるかもしれませんが、極端に偏っている状況ではありません。(前田課長)  
→すみだSST養成講座は、その活用の仕方に学校ごとに濃淡はありますが、概ね全校活用されていま

す。(佐久間参事)

→食育研修会は、各校の取組に温度差はありますが各校から必ず1名出るようにしています。(橋爪室長)

- ・事例で懸念されるようなことがないということなので私の質問があまり意味がないことがわかりました。申し上げたかったことは、ある学校は、ここもそこそこ、ここもそこそこというような学校は比較的閉じられていて、学校の指導体制が非常に閉鎖的になっているところが多いようです。特に小学校にそういったところがあると、小学校は単学級のところが多いものですから問題が発生することが多いと思われます。(尾木委員)

#### **教育相談 (生涯学習課長)**

- ・数値目標を掲げる時に、相談件数は増えたことが良かったといえる数値ではありません。件数の質的な分析が大事だと思います。その辺を注意していただければと思います。
- ・電話相談は、ここには表されていないのですか。(尾木委員)  
→例年、表示していないのでここには含めていません。電話相談は平成24年度は113件、23年度が143件で20年度から、大体110~150件位で推移しています。(前田課長)
- ・いじめ防止法が成立し、この秋までに実施ということになります。あの法案を細かく見てみると教育委員会が様々なことをしていかなければならなくなります。その中で、今までも議論になったところですが、学校で発見されにくい「いじめ」が電話相談で早期に発見されたという事例がかなりありました。それで、今度、いじめ防止法の施行に伴って、いじめ防止に対する対応が強化されますが、その時に電話相談についても、どう機能させるかを検討されるといいと思います指摘させていただきました。(尾木委員)

#### **放課後学習クラブの実施 (すみだ教育研究所長)**

- ・放課後学習クラブとすみだSST養成講座は、事業どうし連動している部分があるのですか。(佐藤委員)  
→放課後学習クラブは、放課後家庭で学習できない事情のある家庭もあるということで学習クラブを創設して基礎・基本をやってきましたが、これを全校展開して「すみだ塾」として25年度から取り組むということになっています。この放課後学習クラブの中でやってくださる外部の先生を養成するというものがSST養成講座になります。こういったところで、学校の中での見守りをされる方を含めて、養成講座の中で学校のニーズに添えていけるようにしています。(佐久間参事)

#### **食育の推進 (学務課長) (指導室長)**

- ・食育と家庭教育関係とを関係付けするということはあるですか。(佐藤委員)  
→連携して何か行うということはありませんが、内容的に「朝ごはんから始まる生活力」だったり、「生活リズム」の話だったり、中身で食育というものを取り上げている部分はあります。

## **目標2 学校と地域を結ぶしくみをつくります**

#### **放課後子ども教室 (生涯学習課長)**

- ・放課後子ども教室はどんな開設状況ですか。(小松委員)  
→最近、共働き家庭が増えておりまして、地域から人が集められない事情があります。それを補うボランティアの紹介を行っておりますが難しい現状があります。(前田課長)
- ・放課後子ども教室と放課後学習クラブは、どう違いますか。(佐藤委員)  
→放課後子ども教室は基本的に宿題のお手伝いです。遊ぶ前に先に宿題をやりたいという子がいれば地域の方がお手伝いするというものです。(前田課長)
- ・ボランティアの人数が1000人余り増えていますが、何か働きかけはしたのですか。(尾木委員)  
→始めは週2回からスタートしましたが、軌道に乗ってくると週3回、週4回と回数が増えていきます。それに合わせボランティアの数も増えてきたということです。PTA中心に町会、ボランティアを直

接募り我々もお手伝いさせていただき増えた結果だと思います。(前田課長)

#### **地域体験活動支援 (生涯学習課長)**

- ・ 自然体験とは、どこか区外で何か行うのですか。(小松委員)  
→区内にある自然体験です。具体的には、畑とかの作業の手伝い、ボランティア活動、清掃活動といった社会体験活動、伝統・文化を体験する活動です。(前田課長)
- ・ 学校の教育科目につながっているのですか。(小松委員)  
→これはこれで行っています。中学校区のPTA、町会の方、育成委員会といった諸々の団体が行っています。(前田課長)
- ・ 小学校と中学校とどちらが多いのですか。(小松委員)  
→小学校の方が多いと思います。(前田課長)
- ・ 回数と団体数が変わらないのに参加者が増えた理由は何ですか。(佐藤委員)  
→地域の方々がイベントを苦勞して実施された結果です。(前田課長)
- ・ 地域の方々の声として負担になっているのでは廃止したいという話にはならないのですか。(佐藤委員)  
→実績が増えていることもあり、そういった話は出ていません。(前田課長)

#### **少年団体等のリーダー育成 (生涯学習課長)**

- ・ 位置づけや活用策が難しいと思いますがどのような工夫を行っていますか。(佐藤委員)  
→本区では子ども会連合会の位置づけとなります。受け入れ側の活用のアイデアが求められます。(前田課長)

#### **学校支援ネットワーク事業の実施(再掲) (すみだ教育研究所長)**

- ・ 地域の住民の方が外から学校を見ているのと何らかの形で関わりを持つとでは、学校に対する課題の共有の仕方とか学校支援に対する気持ちが変わってきます。そういう意味で、学校支援ネットワーク事業が充実しているしているということは大きな意義があります。成果のところ、こういった工夫によって保護者・地域住民の見守りの人数が増えたということを明記すべきだと思います。(尾木委員)

### **目標3 文化やスポーツなど地域での活動の機会を広げます**

#### **墨田区総合体育館管理運営事業 (スポーツ振興課長)**

- ・ 平成25年度以降の取組の中で記載されている内容については、24年度の事業の中でも地域コミュニティ強化や健康増進は図られているので、この文言はむしろ成果の中で活かされる部分が多いように思えますので検討ください。(尾木委員)

#### **総合型地域スポーツクラブ事業 (スポーツ振興課長)**

- ・ 事業の委託をしてノウハウ活用などを検討するとありますが、具体的なアイデアはありますか。(佐藤委員)  
→24年度まで、高齢者健康体操教室、体力づくり教室、中学校スポーツ施設開放事業を一般区民の方に参加いただき実施してきた。この事業の運営についても委託することとしました。そのことで、参加者に総合型地域スポーツクラブを認知してもらい、地域に密着した事業展開が図られればと考えています。(中山課長)

#### **陸上競技場等整備事業 (スポーツ振興課長)**

- ・ 陸上競技場は、どんなイメージですか。(小松委員)  
→基本計画の中では、広く区民の憩えるような運動広場となっています。基本的には、陸上競技トラックを備えた陸上競技場を検討しています。(小松委員)
- ・ どの程度の規模を想定していますか。(小松委員)  
→各種区民大会とか、中学校での連合陸上大会ができる規模を想定していますが敷地との関係があります。トラックの規模については、今後基本計画策定に向けて検討していくことになります。(中山課長)

- ・ 国体との関係は何かありますか。(小松委員)  
→本区では、国体は総合体育館でハンドボールを実施しますが他事業との関連性はあまりなく、この点検・評価の中では触れていません。(中山課長)

#### **すみだ生涯学習センターの運営 (生涯学習課長)**

- ・ 委託し実施されている事業がマンネリ化しているというようなことはないのですか。(佐藤委員)  
→利用者が固定化しているとか企画が偏っているという声も聞きますので、若年者も取り込むような幅広い企画内容を考えて欲しいという要望は話しています。(前田課長)

### **目標4 大学や図書館等多くの教育資源と連携し、学ぶ機会を広げます**

#### **大学等との教育連携 (すみだ教育研究所長)**

- ・ 大学等の「等」には何が入るかという教師になりたい人や教育実習に来た人が含まれるということだと思いますが、それを基本に考えますと私は逆に教師を目指していないが小中学生に関わって欲しい人を大事にすべきだと思います。例えば、芸術系や理工系の学生がボランティアになってもらえると文化祭や美術・技術の時間、理科の実験の時間等をサポートできるのではないかと思います。また、地元の小中学校の卒業生やいろいろな区の講座・講習の修了者がぜひこういった形で貢献してもらえることで確実な施策になっていけばいいと思います。その辺を広げていただければと思います。(小松委員)

#### **統合新図書館の設置 (あずま図書館長)**

- ・ 課題の中の調査・検討を行う必要性については、今の段階で審議されている部分があれば25年度以降の取組で明確になる部分について示していただければいいと思います。(尾木委員)
- ・ この報告書の公表対象は誰ですか。(尾木委員)  
→ホームページで公開しますので広く区民を対象としています。(岩佐課長)
- ・ どなたでも見られるのであれば、区民の方が理解しがたい用語については、アスタリスクで欄外に説明するなどわかりやすく見せる工夫をしていただきたいと思います。(尾木委員)
- ・ より利用しやすいものに改善していくとありますが、もう少し具体的に書いた方がいいと思います。成果と課題の関連を明確にする意味でも具体的な記述が必要かと思います。(佐藤委員)